

| A0604-05 | プロセス排水は危険性あり、軽視するな | | |
|----------|---|---------|--|
| 本文 | プロセス排水は運転状態の変化や異種の排水を混合した場合などにより、危険性のある流体に変化することがあるので、排水といえども軽視しないこと。 | | |
| リスクの種類 | 環境(水)汚染、爆発、有毒性ガスの拡散 | 関連目次・章節 | |
| 理由(何故) | <ul style="list-style-type: none"> ・プロセスの運転状況が正常、異常にかかわらず、運転状態の変動や非定常作業で発生する排水では、その性状、揮発分種類等含有物などが変化し、危険な状態に陥ることがある。 ・異種の排水の混合により、双方の含有物の化学反応などで含有物が増え、危険な状態に陥ることがある。 | | |
| 方策 | <ol style="list-style-type: none"> ① 事前に排水の温度測定や成分分析などをして危険性を洗い出す。 ② プロセスが変動した場合のプロセス排水の変化を把握する。 ③ 異種の排水を混合するときは、混合後の危険性を予測し、適切な対処方法を検討しておく。 ④ 排水の状況が変化した場合の処理方法を検討しておく | | |
| 事故例 | <p>ハイドロキノン製造装置の窒素シールのトルエン排水タンクに他工程のアルカリ洗浄水を受け入れたが、その後、通常は含まれない過酸化水素水を含む排水が入り、アルカリで分解され酸素が発生し、トルエンが爆発した。爆発の原因は上流の中和ドラムの温度不調で気液分離槽の液相中の水量が増え、また、この水抜きバルブが閉塞していたため、過酸化水素が含まれた排水が当該タンクに流入した。</p> <p>(1984年3月 山口県 化学工場) 出典: 失敗知識データベース</p> | | |
| 法的参考事項 | | | |
| 備考 | | | |